

図2 2003年と2004年の赤潮発生と、日平均風速，大浦検潮所潮位，溶存酸素の推移(8/1~9/12)

シャットネラ赤潮), した時の小潮時に発生することが推定された。

無酸素化が生じた前後10日間の溶存酸素と水温の推移を図3に示す(2003年9月1日~10日, 2004年8月8日~17日)。2003年は溶存酸素と水温がよく連動しており, 溶存酸素の低い水は, 冷たい水であることがわかる。2004年は8月9日までは同様の傾向が見られたが, 8月11日には水温が上昇する中で溶存酸素が過飽和か

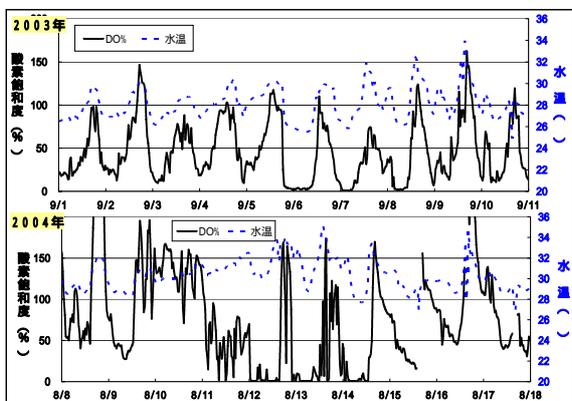


図3 2003年と2004年の溶存酸素と水温の推移

ら一気に低下しており, 2003年と様相が異なった。

図4には, 無酸素化が生じた前後7日間の溶存酸素の推移を同じグラフに示した。無酸素が生じるのは共に3日間であり, その間に過飽和状態も生じることがわかる。

これらの貧酸素化のあと, 2003年には釜地区の一部のアサリがへい死し, 2004年には釜地区のアサリが全滅した。共に同程度の貧酸素でありながら, 2004年は全滅しており, この間の水

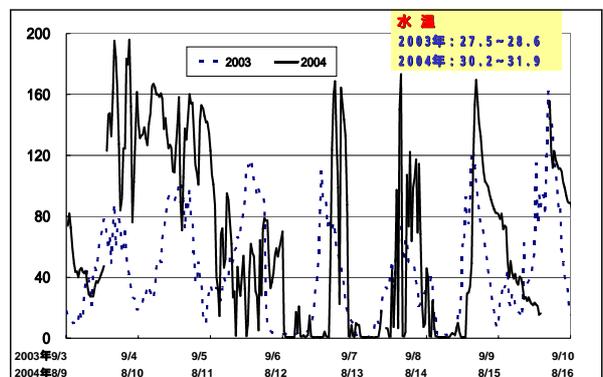


図4 溶存酸素の推移比較(最も貧酸素化した時)